

# 2010年度第2四半期決算

2010年11月5日  
住友商事株式会社

---

1. 2010年度第2四半期決算総括

2. 2010年度通期見通し

3. FOCUS'10の進捗状況

4. 株主還元

# 1. 2010年度第2四半期決算総括

## (1)純利益

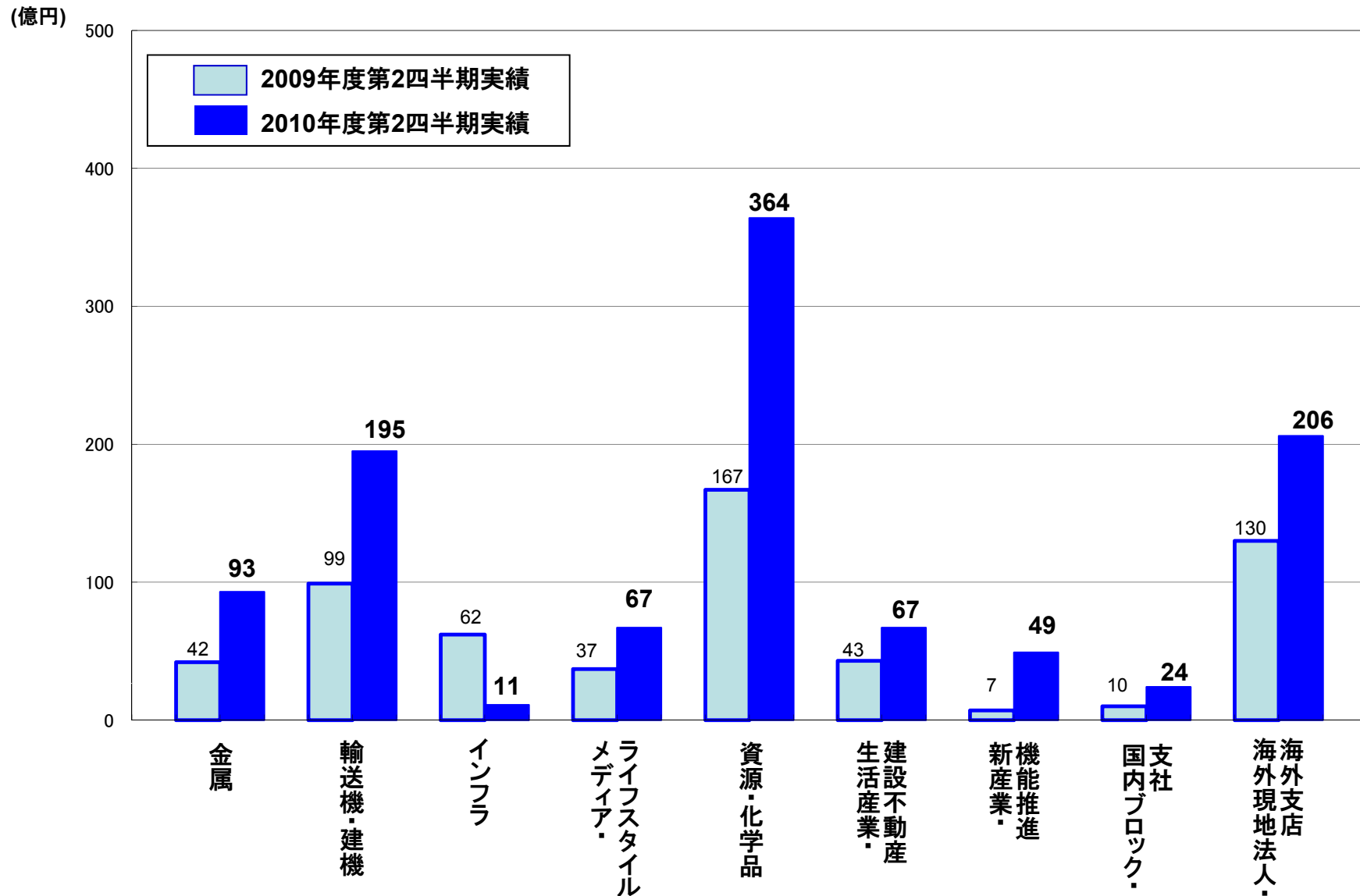
(億円)	2009年度 第2四半期実績	2010年度 第2四半期実績	前年同期比 (%)
純利益	621	1,089	+468 (+75%)

(期初の通期計画1,600億円に対する進捗率=68%)

- ✓ コモディティ価格上昇により、資源ビジネスが好調
- ✓ アジア等の新興国でのビジネスが収益に貢献

# 1. 2010年度第2四半期決算総括

## (2)セグメント別純利益



## 2. 2010年度通期見通し (1)事業環境と業績見通し

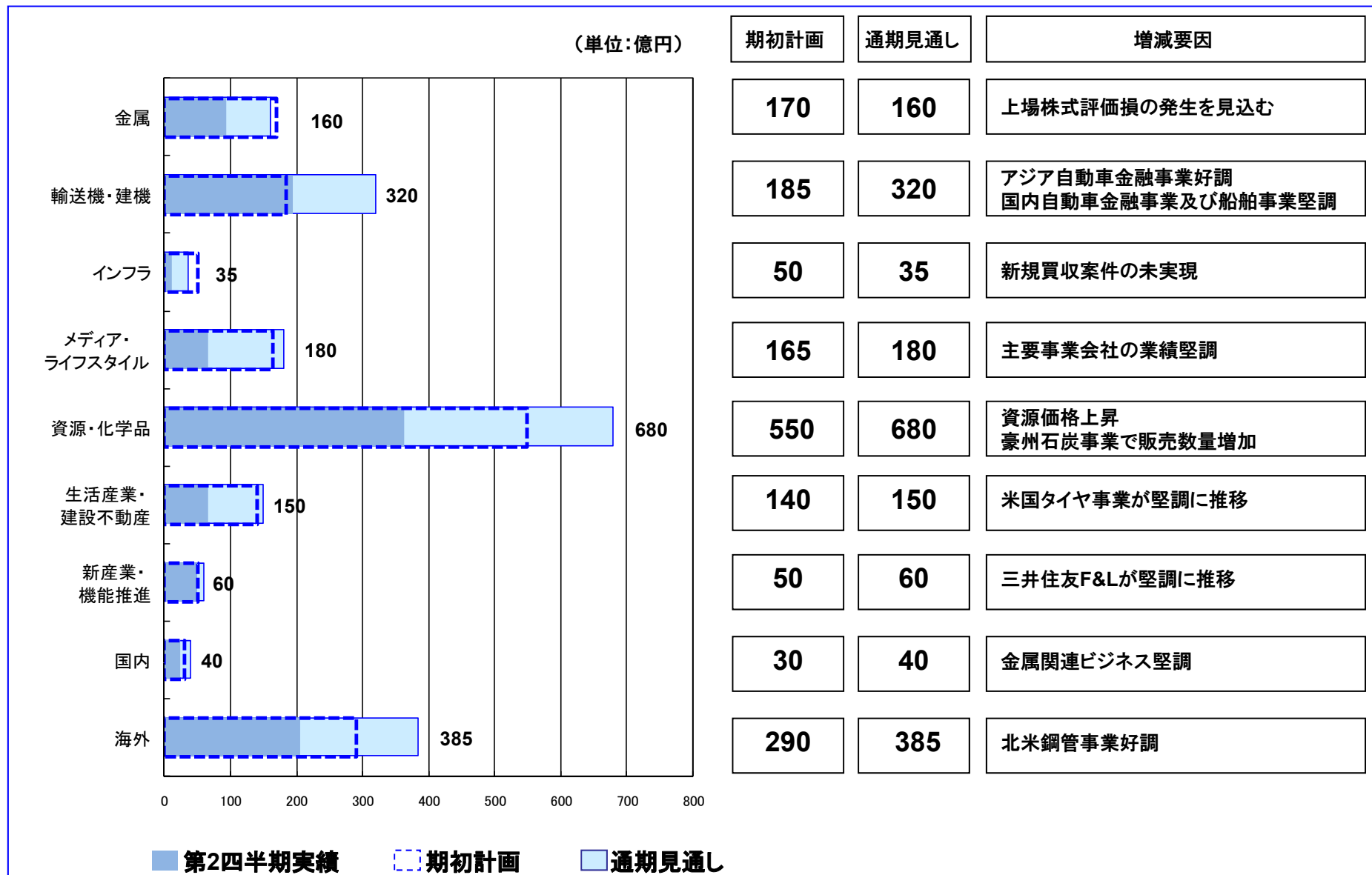
### <事業環境の見通し>

- ✓先進国：総じて緩やかな回復が継続
- ✓新興国：今後も堅調に推移し、世界経済を牽引

(億円)	2010年度計画 (期初)	増減	2010年度見通し (10月時点)	2010年度	
				第2四半期 実績	10月見通し に対する 進捗率(%)
純利益	1,600	+400	2,000	1,089	54%

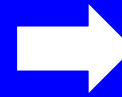
- ✓ 第2四半期までの業績を牽引した資源や新興国でのビジネスが引き続き堅調
- ✓ 第2四半期の収益レベルが第3四半期以降も継続

## 2. 2010年度通期見通し (2)セグメント別純利益計画



### 3. FOCUS'10の進捗状況 (1)2010年度投融資実績①

上半期投融資実績: 1,700億円  
 下半期投融資確定額: 1,500億円



通期計画(4,000~5,000億円)  
 に対し順調に進捗

	上半期 投融資実績	下半期 投融資計画		投融資計画 期初→10月見直し
		内、確定済		
資源・ エネルギー分野*	200億円 (RA:100億円)	1,400億円 (RA:500億円)	1,500億円 (RA:600億円)	1,100億円→1,700億円 (RA:700億円)
インフラ分野*	100億円 (RA:100億円)	-	300億円 (RA:200億円)	500億円→400億円 (RA:300億円)
メディア・ ライフスタイル	1,200億円 (RA:350億円)	-	100億円 (RA:50億円)	1,300億円 (RA:400億円)
その他	200億円 (RA:150億円)	100億円 (RA:100億円)	400億円~ 1,400億円 (RA:150億円)	1,100~2,100億円→ 600~1,600億円 (RA:300億円)
合計	1,700億円 (RA:700億円)	1,500億円 (RA:600億円)		4,000~5,000億円 (RA:1,700億円)

\*事業部門、海外セグメントを含む

### 3. FOCUS'10の進捗状況 (1)2010年度投融資実績②

資源・エネルギー分野における中長期的な収益基盤の拡充

今年度投融資計画 1,700億円

ブラジル鉄鉱石権益取得:1,130億円

想定可採鉱量 :24億ト

年間持分生産量 :2.1百万ト → 2015年には9百万ト

マーセラスシェールガス権益取得:90億円

年間持分生産量:2018年には46bcf(原油換算約8.4百万バレル)

アンバトビーニッケルプロジェクト進捗:300億円

工事進捗率 : 8割(2010年10月現在)

2011年より生産開始、2013年にフル操業予定(年間持分生産量:1.6万ト)



### 3. FOCUS'10の進捗状況 (1)2010年度投融资実績③

## 新興国における将来への布石

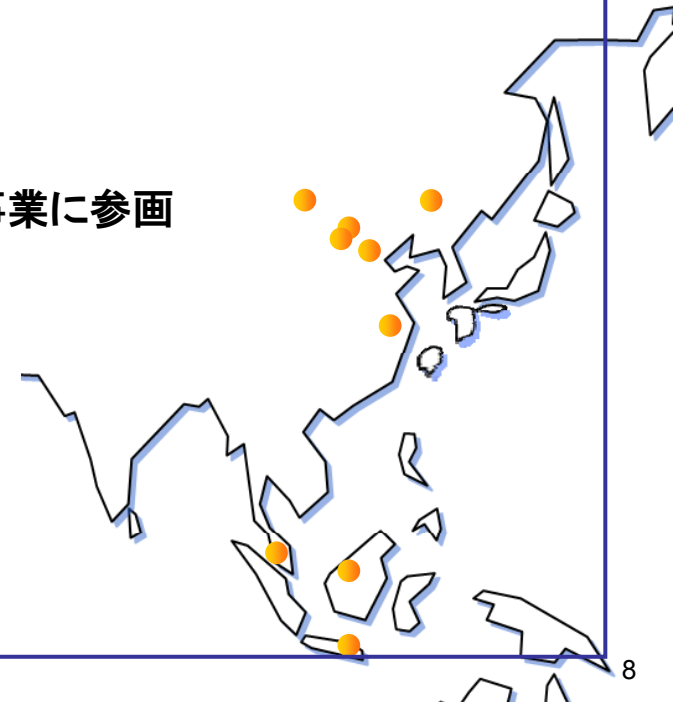
### アジアにおける取り組み実績

#### 中国

- 水・環境事業(インフラ):  
中国の業界最大手、北京キャピタルと提携
- 新エネルギービジネス(インフラ):  
大唐集団新能源と提携し、風力発電等の新エネルギー分野で事業を開発・推進
- 食糧ビジネス(生活産業・建設不動産):  
吉林糧食集団と提携し中国における共同事業の検討を開始
- リサイクル事業(新産業・機能推進):  
DOWAと共同で天津に合弁会社を設立し、廃家電リサイクル事業に参画

#### 東南アジア

- アルミ(金属):マレーシアで製錬事業へ参画し、  
アジア市場で取引を拡大
- 油井管(金属):特殊継手の加工・販売会社を完全子会社化
- 発電事業(インフラ):TJB拡張工事が進捗



### 3. FOCUS'10の進捗状況 (2)B/Sマネジメント

## 健全性(財務基盤)の強化

### FOCUS'10計画

- ✓ 総資産:FOCUS'10終了時点で09/3末比横ばい

09/3末	10/9末	11/3末(見通し)
7兆200億円	7兆300億円	7兆2,000億円

- ✓ フリーキャッシュ・フロー:2年合計で黒字を確保

2009年度	2010年度(見通し)	2年合計
4,510億円	△2,500億円	2,000億円

計画通り  
進捗

加えて、大口資産の削減については  
来期以降の実現に向けて取り組み中

### 3. FOCUS'10の進捗状況 (3)主要経営指標

	10/3末	10/9末	11/3末見通し
総資産	7兆1,378億円	7兆263億円	7兆2,000億円
株主資本*	1兆5,837億円	1兆5,527億円	1兆6,000億円
株主資本比率	22.2%	22.1%	23%程度
有利子負債 (Net)	2兆7,818億円	2兆9,163億円	3兆500億円
DER (Net)	1.8倍	1.9倍	1.9倍程度
リスクアセット	1兆3,800億円	1兆3,900億円	1兆5,400億円
リスク・リターン (2年平均)	2009年度 11.3%	—	FOCUS'10 2年平均 13%程度
フリーキャッシュ・フロー	2009年度 4,510億円	2010年度 第2四半期 △1,323億円	FOCUS'10 2年合計 2,000億円

\*当社株主に帰属する資本のみを含み、「非支配持分」は含めておりません。09/3末までの「株主資本」と同じ内容です。同様に、「株主資本比率」、「DER(Net)」を計算する際の株主資本にも「非支配持分」は含めておりません。

## 4. 株主還元

### 株主還元の充実

#### 配当方針の見直し

見直し前: FOCUS'10中は、配当性向20%を目処



見直し後: 今後、配当性向を20~30%の範囲で運用

#### 2010年度の配当

- ✓ 中間配当: 純利益見通し2,000億円の半額に対し、配当性向20%を適用
- ✓ 期末配当: FOCUS'10の順調な進捗、強固な収益基盤の確立を背景に、年間純利益の半額に対し配当性向25%を適用

2010年度	中間	期末	年間	配当性向
配当額/株 期初予想→見直し後予想	12円→16円	13円→20円	25円→36円	中間 20% 期末 20%→25%

## 地軸の変化や産業構造の変化への対応

✓ **ビジネスモデルの転換**  
- 変化を先取りした取り組み  
- 積極的な資産入替の推進

✓ **グローバル人材育成**  
✓ **組織間の連携の強化**

## 新たな成長に向けて

## (以下参考資料)

---

- ✓ 前提条件
- ✓ セグメント別補足資料  
(業績概要、FOCUS' 10 戦略・重点分野)
- ✓ 中期経営計画の推移他

# 前提条件

前提条件		2010年度			センシティブティ (10/10時点、ヘッジ後)
		期初見通し (10/4時点)	第2四半期 実績	見通し (10/10時点)	
為替 (¥/US\$) (4-3月平均)		90	88.89	90	約8億円 (1¥/US\$)
金利	LIBOR 6M (YEN) (4-3月平均)	0.60%	0.44%	0.42%	—
	LIBOR 6M (US\$) (4-3月平均)	1.00%	0.61%	0.56%	—
原油<北海ブレント> (US\$/bbl) (1-12月平均)		75	78	78	約0.3億円 (1US\$/bbl)
銅 (US\$/t) (1-12月平均)		6,200	7,130	7,385	約1.3億円 (100US\$/t)

## 業績概要

### 【10年度2Q累計:93億円(前年同期比+51億円)】

#### ・鋼材

海外スチールサービスセンター事業は、東南アジア域内や中国での製品需要増により順調に進捗。

#### ・鋼管

北米鋼管事業では、需要増加や市況価格の上昇により堅調に推移。

### 【2010年度の主な投資実績】

- ・シンガポール油井管加工/販売会社買収完了  
(2010年6月)(7カ国10箇所に拠点展開)
- ・マレーシアアルミニウム製錬事業に出資合意(2010年9月)
- ・ブラジル新ミルの建設工事進行中

### 【事業概況】

- ・鋼材: 海外スチールサービスセンター事業は、東南アジアでは引き続き需要が堅調に推移するも、中国では金融引き締めの影響もあり需要が鈍化する見通し。
- ・鋼管: 北米鋼管事業では、石油・シェールガス開発用リグの増加により油井管需要が堅調に推移する見通し。

※2010年度通期見通しは2010年10月時点。(単位:億円)

	2009年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	2010年度 通期見通し※
売上総利益	260	328	-
営業利益	46	118	-
持分法損益	17	33	-
当期純利益	42	93 1Q: 55 2Q: 38	160
総資産	2010/3末 6,092	5,937	-

### 【主要事業会社実績(当事業部門持分損益)】

会社名	(単位:億円)		
(当部門持分割合/全社持分割合):	FY09.2Q累計	FY10.2Q累計	FY10見通し※
・SC Pipe Services :	2	10	20
・Asian Steel :	0	6	7
・住商メタレックス(90/100) :	2	5	10
・ERYNGIUM(30/100)*:	5	2	4

\*FY09.2Qの持分比率は27/90



## FOCUS'10 戦略・重点分野

### ・エネルギー・自動車分野

#### >鋼管バリューチェーン拡充

SCM拠点の拡充(現在、世界14カ国15箇所で展開。)

鋼管製造事業(ブラジル) 出資比率:バローレックグループ56%、住友金属工業(株)39%、当社5%

シームレスパイプ生産量 60万t/年

油井用鋼管鋼材加工の世界展開

#### >スチールサービスセンターの機能の高度化

(2010年9月末時点 スチールサービスセンター生産能力:海外13ヶ国 約470万t、国内 約230万t)

### ・環境・新エネルギー分野

#### >再生可能エネルギーへの取組

太陽光発電関連部材取引

#### >太陽電池、二次電池への取組強化

### 【2009年度の主な投資・資産入替実績】

・中国ステンレス加工・販売会社へ出資参画(2009年5月)

・インド鋼材加工センター設立(2010年4月稼動開始)

## 業績概要

### 【10年度2Q累計：195億円（前年同期比+96億円）】

#### ・自動車

インドネシア及び国内の金融事業好調。

#### ・建機

中国は需要が底堅く、順調に進捗。

欧州は財政危機の影響により厳しい状況。

#### ・船舶・航空宇宙・車輜

船舶事業堅調。

### 【2010年度の主な投資実績】

- ・トヨタリビア社営業開始（2010年4月、2009年12月に設立）

※2010年度通期見通しは2010年10月時点。（単位：億円）

	2009年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	2010年度 通期見通し※
売上総利益	632	755	—
営業利益	109	234	—
持分法損益	46	60	—
当期純利益	99	195 1Q: 97 2Q: 98	320
総資産	2010/3末 13,993	13,268	—

### 【主要事業会社実績（当事業部門持分損益）】

会社名	(単位：億円)		
(当部門持分割合/全社持分割合)：	FY09.2Q累計	FY10.2Q累計	FY10見通し※
・Oto Murtiartha：	17	30	49
・SOF(89.56/99.56)*：	20	29	50
・住友三井オートサービス：	12	23	40

\*FY09.2Qの持分比率は89.6/99.6

### 【事業概況】

- ・自動車：インドネシア及び国内の金融事業は引き続き堅調に推移する見通し。販売面では円高による影響を懸念。
- ・建機：中国は需要期が上期であることから、下期は弱含む見通し。  
一部ビジネスで事業基盤の一層の強化に伴う損失等を見込む。
- ・船舶：市況の先行きは不透明。

## FOCUS'10 戦略・重点分野

### ・自動車

>金融事業 海外：・OTO/SOF(インドネシア)の更なる拡充

(10年度上期融資契約実行台数	OTO:6.4万台、SOF:43.6万台
10年度通期融資契約実行台数見通し	OTO:13.0万台、SOF:93.0万台
09年度通期融資契約実行台数	OTO:8.6万台、SOF:65.6万台)

・アジア(フィリピン等)における二輪車ファイナンス事業推進

>販売事業

新興国向け販売事業の取り組み深耕

>製造事業

いすゞ商用車製造販売(インド)

### ・建機

>販売代理店事業の更なる拡充(中国、ロシア他)

>グローバル展開：レンタル事業の推進、マイニング向け鉱山機械販売・サービス事業の推進(モンゴル・ロシア他新興国)、農機販売の拡大(インド他)

### ・船舶・航空宇宙・車輜

>船舶：継続的な入替によるポートフォリオの維持・拡充

### 【2009年度の主な投資・資産入替実績】

・フィリピン二輪車向ファイナンス会社設立(2009年11月)

・米国建機レンタル事業に参画(2009年12月)

## 業績概要

【10年度2Q累計：11億円（前年同期比▲51億円）】

・IPP/IWPP

タンジュン・ジャティB電力事業減益。

・その他

モンゴル携帯電話事業堅調。

※2010年度通期見通しは2010年10月時点。(単位:億円)

	2009年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	2010年度 通期見通し※
売上総利益	165	108	-
営業利益	45	▲ 9	-
持分法損益	24	27	-
当期純利益	62	11 1Q: 6 2Q: 4	35
総資産	2010/3末 5,214	5,251	-

【2010年度の主な投資実績】

・インドネシア タンジュン・ジャティB拡張工事進捗。

【主要事業会社実績(当事業部門持分損益)】

会社名 (当部門持分割合/全社持分割合) :	FY09.2Q累計	FY10.2Q累計	(単位:億円) FY10見通し※
・MobiCom :	7	8	17
・Perennial Power Holdings(50.01/100) :	3	3	4

【事業概況】

- ・電力・プラントEPC：アジア・中東・CIS等で大型案件が減少。
- ・IPP/IWPP：予定していた新規買収案件が未実現。
- ・円高の影響を懸念。

## FOCUS'10 戦略・重点分野

### ・IPP/IWPP

>アジア、中東、豪州、米州での更なる拡充

### ・タンジュンジャティBプロジェクト

>拡張プロジェクト着工(2012年完工予定)

} 持分発電量(契約ベース):5,029MW(2010年9月末時点)

### ・電力プラントEPC

>アジアを中心とする重点市場での電力需要に対応

>地熱発電等の再生可能エネルギーに注力

### ・風力・水事業

>米国、中国等の重点市場における事業ポートフォリオの拡大(風力事業)

>メキシコでのビジネス拡充に加え、中東、アジア地域でのビジネス推進(水事業)

### ・通信事業

>海外での通信IT分野の事業基盤拡充

### 【2009年度の主な投資・資産入替実績】

・米国Stanton風力発電権益取得(2009年7月)

・米国Mid-Georgia複合火力発電所権益取得(2009年11月)

## 業績概要

### 【10年度2Q累計:67億円(前年同期比+30億円)】

#### ・主要事業会社

ジュピターテレコム堅調。

(TOBによる持分増加、子会社再編による税効果あり。)

住商情報システム増益。

#### ・その他

映画制作・配給ビジネス改善。

### 【2010年度の主な投資実績】

・J:COM株式買い増し(2010年4月)

### 【事業概況】

・主要事業会社(ジュピターテレコム、ショップチャンネル、住商情報システム)が概ね堅調に推移。

※2010年度通期見通しは2010年10月時点。(単位:億円)

	2009年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	2010年度 通期見通し※
売上総利益	844	874	-
営業利益	16	46	-
持分法損益	49	78	-
当期純利益	37	67 1Q: 40 2Q: 27	180
総資産	2010/3末 6,971	7,654	-

### 【主要事業会社実績(当事業部門持分損益)】

会社名 (部門持分割合/全社持分割合) :	FY09.2Q累計	FY10.2Q累計	FY10見通し※
・ジュピターテレコム*1 :	41	81	146
・ジュピターショップチャンネル :	42	43	93
・住商情報システム*2 :	5	9	21
・サミット(92.5/100) :	13	7	18
・アスミック・エースエンタテインメント :▲10		▲1	1

\*1 FY09.2Qの持分比率は27.73%, FY10.2Qの持分比率は40.12%

\*2 FY09.2Qの持分比率は60.56%, FY10.2Qの持分比率は60.55%

## FOCUS'10 戦略・重点分野

- ・メディア／IT／リテイルの融合によるコンシューマ向けビジネスの強化・拡大
  - >ジュピターショップチャンネルの商品力・番組力強化と顧客基盤拡大  
(テレビ通販最大手/2009年度市場シェア:約27%)
  - >ネットスーパー事業の首都圏での本格展開(サービス開始:2009年10月～)
  - >既存リテイルビジネスのマルチチャンネル化推進
- ・J:COMの収益力強化(日本最大のMSO/市場シェア:約36%〈2009年9月時点〉)
  - >コンテンツの充実及びサービス品質の向上  
(12社17チャンネルに出資)
  - >直営店舗拡充等による地域密着度の深化
  - >デジタル化推進によるサービスの高度化
- ・コア事業の強化
  - >住商情報システムの事業基盤強化  
(自社開発ERPソフトの拡販とソフトウェア開発効率の向上を図る)
  - >サミット/トモズ新規出店等によるシェア拡大  
(2010年9月末店舗数 サミット:96店、住商ドラッグストアーズ135店)
  - >ティーガイアの販売網強化と経営の効率化

### 【2009年度の主な投資・資産入替実績】

- ・エイジェイシーシー売却(2009年6月)
- ・クスのカツマタ買収(2009年7月)

## 業績概要

### 【10年度2Q累計:364億円(前年同期比+198億円)】

- ・豪州石炭事業：価格上昇及び販売数量増加により増益。
- ・銅事業：価格上昇貢献、Divestitureによる譲渡益あり。
- ・ポリビア銀・亜鉛・鉛(サンクリストバル)事業  
販売数量減少により減益。52(▲19)  
価格ヘッジ損失 ▲31(▲14)
- ・北海油田権益：油価上昇により増益。
- ・化学品  
中国を中心とする需要回復。  
事業会社株式の売却益あり。

### 【2010年度の主な投資・資産入替実績】

- ・バツヒジャウ権益一部売却(2010年3月)
- ・ブラジル鉄鉱山会社への出資(2010年9月に最終合意)
- ・米国マーセラス・シェールガス開発プロジェクトに  
参画(2010年9月)
- ・米国化粧品原料フォーミュレーター会社を  
完全子会社化(2010年9月)
- ・アンバトビープロジェクト工事進捗 約8割

### 【事業概況】

- ・豪州石炭事業：期初の想定を上回る価格で推移しており、販売も順調に進捗。
- ・銅事業：期初の想定を上回る価格で推移しており堅調に推移する見通し。予定していた持分売却が遅れる見通し。
- ・Cantex：住宅・商業施設着工低迷の影響続く。

※2010年度通期見通しは2010年10月時点。(単位:億円)

	2009年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	2010年度 通期見通し※
売上総利益	334	532	—
営業利益	60	268	—
持分法損益	158	166	—
当期純利益	167	364 1Q: 226 2Q: 138	680
総資産	10,792	10,218	—

### 【主要事業会社実績(当事業部門持分損益)】

会社名 (当部門持分割合/全社持分割合) :	FY09.2Q累計	FY10.2Q累計	(単位:億円) FY10見通し※
・Sumisho Coal Australia :	31	139	238
・ヌサ・テンガラ・マイニング :	19	79	135
・ポリビア銀・亜鉛・鉛事業会社2社 :	71	52	147
・Oresteel Investments(45/49) :	84	30	62
・北海油田事業権益保有会社2社 :	4	21	31
・SC Minerals America(84.75/100) :	5	16	35
・SMM Cerro Verde Netherlands :	4	14	28
・Sumi Agro Europe(80/100) :	7	9	6
・住友商事ケミカル(75/100) :	2	8	14
・エルエヌジージャパン :	2	5	14
・スミトロニクス :	3	3	9
・The Hartz Mountain(40.59/100) :	2	2	3
・Petro Summit Pte.(80/100) :	12	0	7
・Cantex(55/100) :	▲7	▲2	▲4



## [資源権益持分生産量及びセンシティブティ]

	FY09 持分生産量実績	FY10 持分生産量見通し		センシティブティ (年間ベース/ 価格ヘッジ考慮前)	FY09 価格実績	FY10 価格見通し	
		(2010年10月)	2Q累計実績			(2010年10月)	2Q累計実績
原料炭	2.5百万t	2.7百万t	1.5百万t	1.5億円(\$1/t)	\$128/t	\$211/t	\$213/t
一般炭	2.2百万t	2.0百万t	1.1百万t	1.1億円(\$1/t)	\$70/t	\$99/t	\$101/t
鉄鉱石	1.1百万t	1.5百万t	0.8百万t	0.4億円(\$1/t)	\$82/t	\$115/t	\$90/t
マンガン鉱石	0.3百万t	0.5百万t	0.2百万t	0.1億円(\$1/t)	\$510/t	\$330/t	\$330/t
銅	8.5万t	7.4万t	3.8万t	2.7億円(\$100/t)	\$5,200/t	\$7,385/t	\$7,130/t
内、バツヒジャウ	5.6万t	4.5万t	2.4万t				
銀	501t (16.1百万oz)	407t (13.1百万oz)	236t (7.6百万oz)	6.1億円(\$1/oz)	\$14.7/oz	\$19.3/oz	\$17.6/oz
亜鉛	246千t	214千t	100千t	11.2億円 (\$100/t)	\$1,670/t	\$2,127/t	\$2,150/t
鉛	70千t	62千t	29千t	3.0億円 (\$100/t)	\$1,740/t	\$2,126/t	\$2,079/t
原油、ガス	4.1百万bbl	3.7百万bbl	2.0百万bbl	0.8億円(\$1/bbl)	\$63/bbl	\$78/bbl	\$78/bbl
LNG	12.2万t	30万t	14.8万t	-	-	-	-

備考) 価格は市場情報に基づく一般的な取引価格。原料炭、一般炭、鉄鉱石、マンガン鉱石: 持分出荷量を記載。

銀・亜鉛・鉛: 生産量はサンクリストバルプロジェクト100%ベース。(FY09.1Qの当社持分は35%、2Q以降は100%)

## FOCUS'10 戦略・重点分野

### ・部門統合による近接分野でのシナジーの追求

>石油・天然ガスと有機化学品、非鉄金属資源と無機化学品でのシナジーの追求

### ・資源ポートフォリオの厚みを増強

>石炭・銅事業での順調な操業と収益貢献

>非鉄、鉄鋼原料、エネルギー分野での新規優良権益の取得

### ・大型資源権益プロジェクト

>銀・亜鉛・鉛(ボリビア)：操業安定化・更なるコスト削減

>ニッケル(マダガスカル)：プロジェクトの着実な推進

### ・化学品

>無機原料：硫黄・硫酸などのトレード機能強化

>農薬：販売網のグローバル展開(米州、アジア)

### 【2009年度の主な投資・資産入替実績】

・英領北海権益(2009年5月)／ポゴ金鉱山権益取得(2009年7月)

・米国シェールガス権益取得(2009年12月)

・PSIUK株式(2009年11月)／バツヒジャウ権益一部(2009年11～12月)売却

# 生活産業・建設不動産

## 業績概要

### 【10年度2Q累計:67億円(前年同期比+23億円)】

#### ・食料

バナナ事業は市況沈静化。

肥料ビジネスは前年同期、商品評価損あり。

#### ・生活資材

TBCは市場が回復し、タイヤの販売本数が増加したこと等により増益。

#### ・建設不動産

ビル・住宅事業堅調。

### 【2010年度の主な投資実績】

#### ・豪州穀物の港湾ターミナル/サイロ運営会社

100%子会社化 (2010年4月)

#### ・中国上海で大型不動産開発事業に参画

(2010年6月)

※2010年度通期見通しは2010年10月時点。(単位:億円)

	2009年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	2010年度 通期見通し※
売上総利益	480	473	-
営業利益	99	91	-
持分法損益	3	23	-
当期純利益	43	67 1Q: 39 2Q: 27	150
総資産	2010/3末 7,475	6,864	-

### 【主要事業会社実績(当事業部門持分損益)】

会社名 (当部門持分割合/全社持分割合) :	FY09.2Q累計	FY10.2Q累計	FY10見通し※
・バナナ事業 :	22	14	16
・TBC(40/100) :	8	12	18
・Summit Rural WA(80/100)* :	▲16	▲3	▲5

\*FY09.2Qの持分比率は50.01/100

### 【事業概況】

・食料: バナナ事業は上期偏重。

・生活資材: TBCは消費者心理悪化により減速が見込まれるものの、全体としては堅調に推移する見通し。

・建設不動産: 住宅分譲事業は下期に引き渡しを多く見込む。

## FOCUS'10 戦略・重点分野

### ・食料

- >肥料：海外での収益基盤強化（西豪州、マレーシア、中国、タイ）
- >バナナ：生産・販売基盤拡充、高付加価値商品強化（2010年度上期国内シェア:26%）
- >小麦：豪州に構築した川上基盤を活用したアジア域内での事業展開

### ・生活資材

- >タイヤ：TBCの収益基盤強化（タイヤ販売・メンテナンス強化、小売網の整備）  
（2010年9月末時点 北米市販市場シェア:約11%）
- >木材：ロシア材加工事業推進  
（2009年4月に木材製品工場が本格稼働）

### ・建設不動産

- >ビル・商業施設：積極的な資産入替と優良資産の積み増しを実行  
（2010年9月末管理オフィスビル:62物件、2010年9月末管理商業施設:17物件）
- >住宅：ポストFOCUS'10の収益基盤の確保に向けて新規物件開発を推進  
（現在販売中の物件:クラッシィハウス目黒洗足、リエトコート武蔵小杉、ザ・香里園タワー、御影タワーレジデンス等）

### 【2009年度の主な投資・資産入替実績】

- ・保有ビル売却(2010年1月)
- ・豪州穀物集荷事業に50%出資(2010年3月)

# 新産業・機能推進

## 業績概要

(2009年度実績は、旧「金融・物流事業部門」の実績を記載しています。)

### 【10年度2Q累計:49億円(前年同期比+42億円)】

- ・三井住友ファイナンス&リース  
クレジットコスト減少により増益。
- ・国内金融事業  
前期、大口の貸倒有り。
- ・その他
  - 三井住友ファイナンス&リースからの配当に伴う  
税負債取崩益あり
  - 株式評価損あり

### 【2010年度の主な投資実績】

- ・中国天津における廃家電・廃電子機器リサイクル  
事業に出資(2010年4月)

※2010年度通期見通しは2010年10月時点。(単位:億円)

	2009年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	2010年度 通期見通し※
売上総利益	106	140	-
営業利益	▲27	3	-
持分法損益	31	25	-
当期純利益	7	49 1Q: 53 2Q: ▲5	60
総資産	2010/3末 5,546	5,626	-

### 【主要事業会社実績(当事業部門持分損益)】

会社名 (単位:億円)  
(当部門持分割合/全社持分割合): FY09.2Q累計 FY10.2Q累計 FY10見通し※

- ・三井住友ファイナンス  
&リース(35/40): 33 49 68
- ・Sumisho Aircraft  
Asset Management(95/100): 1 2 4

### 【事業概況】

- ・三井住友ファイナンス&リースを中心に概ね堅調。

## FOCUS'10 戦略・重点分野

### ・新事業推進

- >ソーラービジネス: 太陽光発電ビジネスバリューチェーンの一層の強化
- >環境ソリューション: 環境リサイクル分野、排出権、低炭素事業分野での事業開拓・展開
- >次世代電池: リチウムイオン電池におけるバリューチェーンの構築・推進
- >インキュベーションビジネス: 成長産業における新技術・事業シーズの発掘と新事業の創出

### ・金融ビジネス

- >リースビジネス: 三井住友ファイナンス&リースとの協業によるリース事業の拡充  
(2010年9月末時点 航空機リース保有機体28機、内10機は三井住友ファイナンス&リースとの  
ジョイントベンチャーで保有)
- >コモディティ: 商品価格変動リスクのヘッジニーズ取り込み

### ・物流ビジネス

- >物流: グローバルネットワークを活用したビジネス拡充
- >海外工業団地: ベトナム第二タンロン工業団地(TLIP II)販売強化、及び新地域での事業展開・検討

# 海外現地法人・海外支店

## 業績概要

【海外現地法人 2Q累計:206億円(前年同期比+76億円)】

米国:114億円(前年同期比+63億円)

欧州:31億円(前年同期比▲9億円)

アジア:22億円(前年同期比▲5億円)

在中国現地法人9社:16億円(前年同期比+4億円)

豪州:5億円(前年同期比+19億円)

・米国・中国:金属事業堅調。

・豪州:前年同期、肥料ビジネス評価損あり。

### 【事業概況】

・金属事業は堅調に推移する見通し。

・円高による影響懸念あり。

※2010年度通期見通しは2010年10月時点。(単位:億円)

	2009年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	2010年度 通期見通し※
売上総利益	803	888	—
営業利益	176	242	—
持分法損益	30	44	—
当期純利益	130	206 1Q: 94 2Q: 112	385
総資産	2010/3末 11,178	10,791	—

### 【主要事業会社実績(当事業部門持分損益)】

会社名 (海外持分割合/全社持分割合):	FY09.2Q累計	FY10.2Q累計	FY10見通し※
・ERYNGIUM(70/100)*1:	11	6	11
・SOF(10/99.56)*2:	3	3	6
・Perennial Power Holdings(49.99/100):	4	3	3
・The Hartz Mountain(59.41/100):	3	4	5
・Cantex(45/100):	▲5	▲1	▲3
・Sumi Agro Europe(20/100):	2	2	1
・Petro Summit Pte.(20/100):	3	0	1
・SC Minerals America(15.25/100):	1	3	7
・Oresteel Investments(4/49):	8	3	5
・TBC(60/100):	12	18	27
・Summit Rural WA(20/100)*3:	▲16	▲1	▲1
・Sumisho Aircraft Asset Management(5/100):	0	0	0

\*1 FY09.2Qの持分比率は63/90

\*2 FY09.2Qの持分比率は10/99.6

\*3 FY09.2Qの持分比率は49.99/100

# FOCUS'10 リスクアセット積み増し計画(2010年10月時点)

## リスクアセット積み増し計画(2年間)

### 【FOCUS'10開始時】

リスクアセット: +1,000億円(Net)

増加: +2,000億円

減少: ▲1,000億円



### 【見通し】

リスクアセット: +1,600億円(Net)

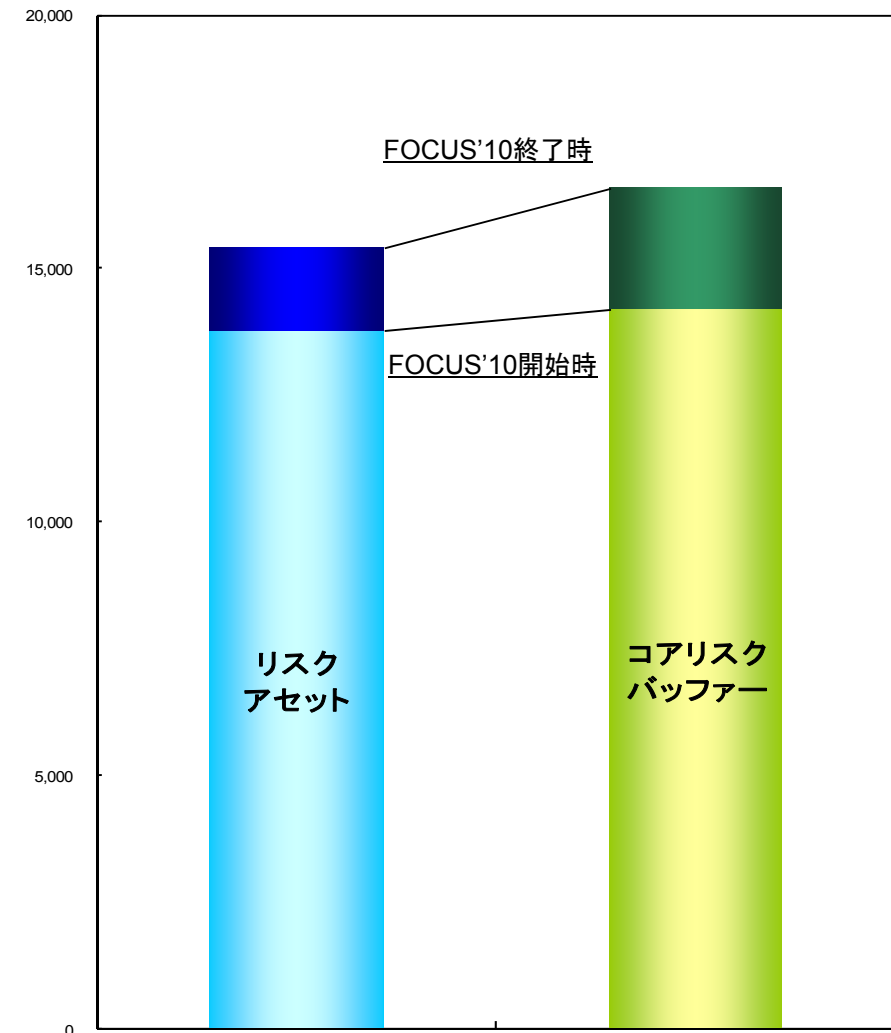
増加: +2,600億円

減少: ▲1,000億円

## リスクアセットとコアリスクバッファ\*のバランス

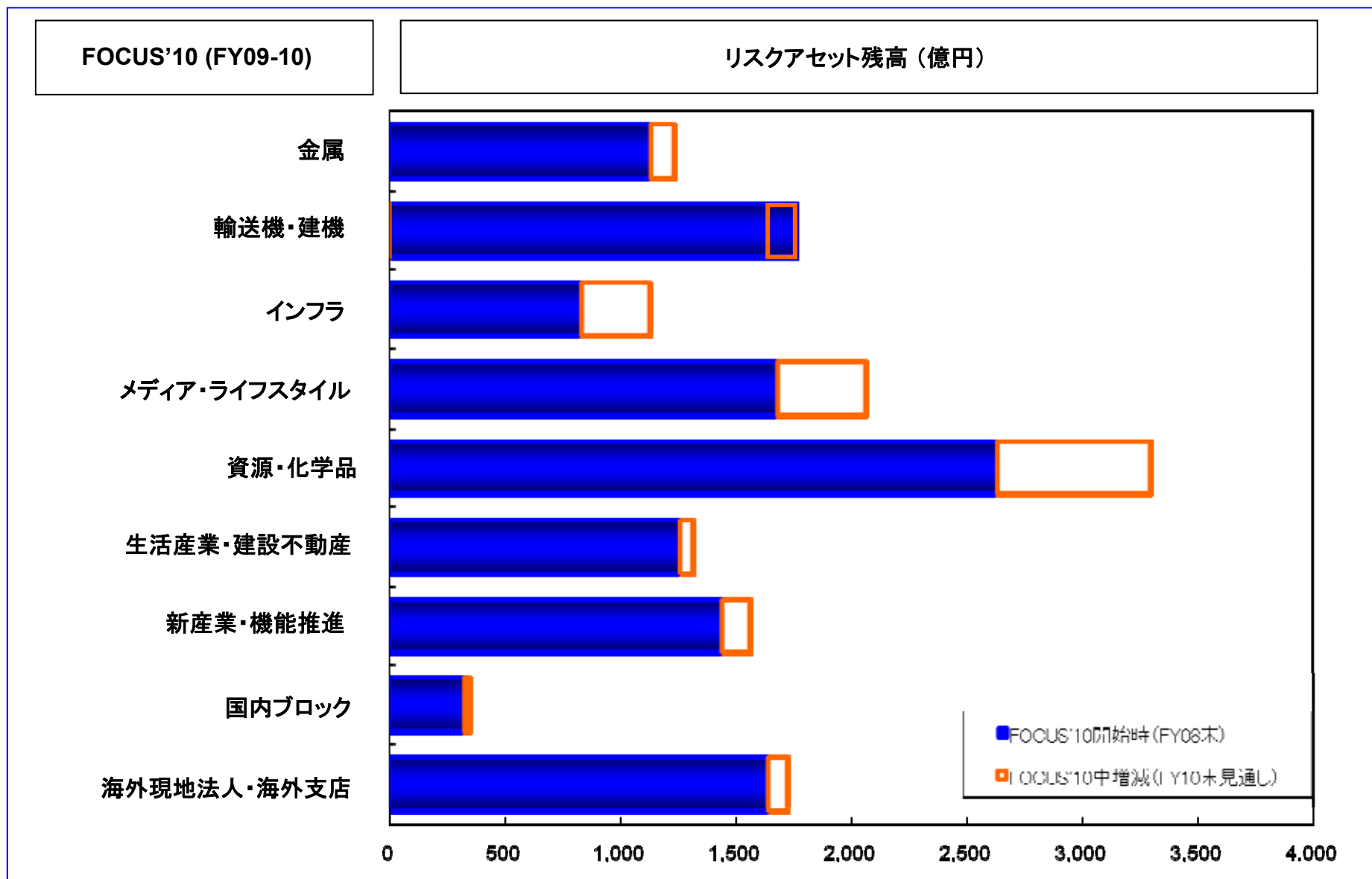
(億円)

\* 資本金+剰余金+外貨換算調整勘定-自己株式





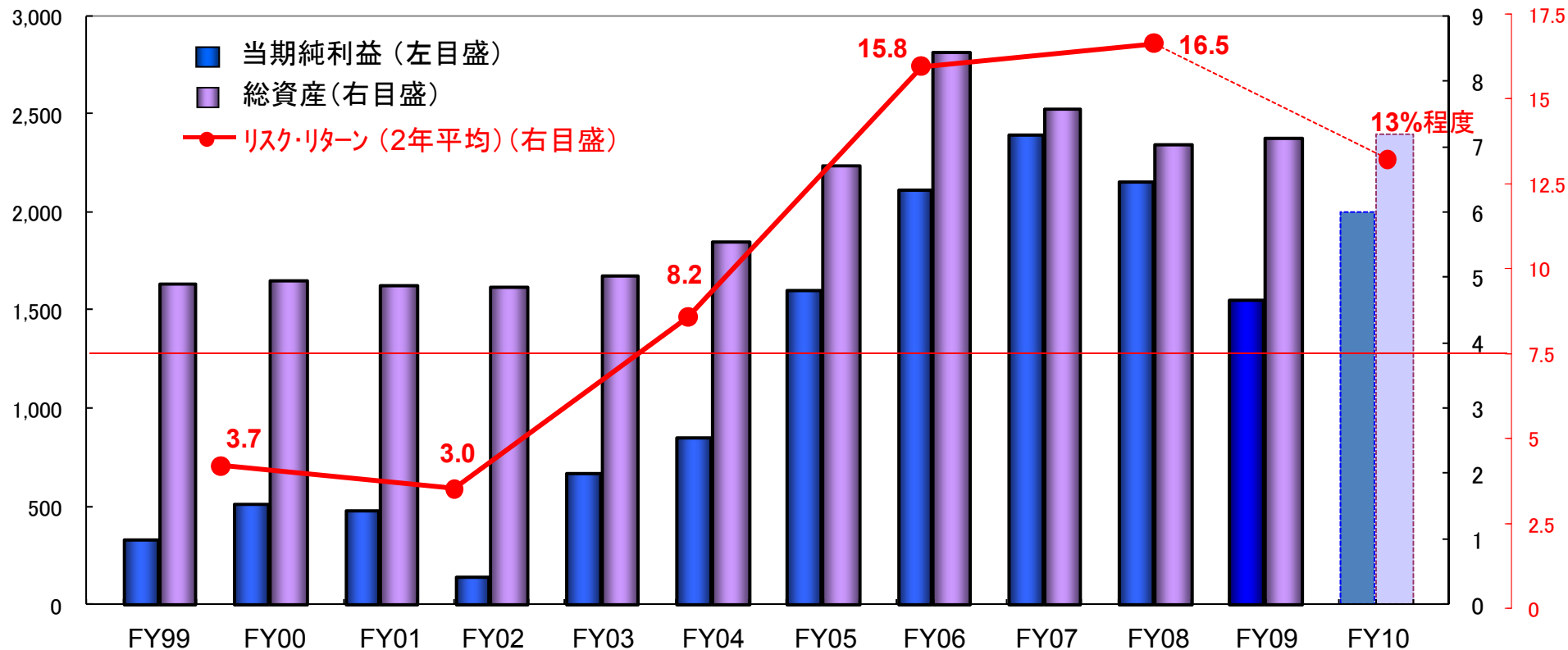
# FOCUS'10 セグメント別リスクアセット見通し(2010年4月時点)



# 中期経営計画の推移

(億円)

(兆円) (%)



改革パッケージ	Step Up Plan	AA Plan	AG Plan	GG Plan	FOCUS'10
事業の選別、 資産の圧縮 による体質強化	中核事業の 構築・拡大、 資産の入替 による 収益性の向上	優良資産を 積極的に 積み増し	収益基盤の 拡大に軸足	新たな 成長ステージに 向けて、更なる 質の向上を追求	新たなステージ における 成長シナリオ

# 株主構成推移

